



令和元年8月9日

川西町議会議長 加藤 俊一 殿

川西町議会広聴広報常任委員会
委員長 伊藤 寿郎

閉会中の所管事務調査先進地視察調査報告について

令和元年第2回川西町議会定例会において許可された所管事務調査について、
別紙のとおり報告します。

令和元年度 広聴広報常任委員会視察研修報告書

- 1 研修視察期日 令和元年7月11日(木)～12日(金)
- 2 視察先 ①令和元年度全国町村議会広報クリニック(北海道・東北地区)
全国町村議員会館
②栃木県塩谷郡高根沢町議会
- 3 視察参加者 委員長 伊藤寿郎 副委員長 遠藤明子
委員 鈴木幸廣 伊藤進 井上晃一 渡部秀一(11日のみ)
- 4 研修目的 ①全国町村議会広報クリニック研修
②編集テクニックを学ぶ先進地視察研修
- 5 視察研修報告

◇全国町村議会広報クリニック

北海道・東北地区より26町村参加

第1分科会(18町村) 講師 吉村 潔 氏

第2分科会(8町村) 講師 長岡 光弘 氏

川西町は第2分科会にて全国広報コンクール広報紙部門審査員の長岡光弘氏を講師に迎えクリニックを受けた。

クリニックの視点では

01: 議会広報紙としての編集視点

02: 情報把握ができる紙面構成か

03: 住民に情報が伝わる編集か

04: 住民に情報が伝わる紙面表現か

議会広報紙のクリニック(5町村)

以上4項目を課題とした研修内容で、他町村(5町村)の議会広報紙のクリニックによる編集技術を共有した。

◇栃木県塩谷郡高根沢町議会

①視察地の概要

高根沢町は、昭和33年に町村合併され面積70.87平方キロ、人口2万9600人であり、栃木県のほぼ中央に位置し県都宇都宮に隣接、首都東京からおよそ100kmに位置する。町の西側を国道4号線とJR東北本線が

縦断し、首都東京まで新幹線でおよそ 45 分程度、車では 120 分程度で連絡する。

②視察対応者

高根沢町議会広報広聴特別委員会委員長	佐藤 晴彦	副議長
同	副委員長	高根 博
同	委員	森 弘子
同	委員	神林 秀治
同	委員	横須賀 忠利
同	委員	齋藤 誠治
同	議会事務局	齋藤、戸村

③視察内容

【質問事項】

Q1 見やすい紙面、レイアウトとするためどのようなことを工夫されているか。

A. なかなか改善されないが、文章だけにならないように心掛けていることや、ホワイトスペースを意識しながらレイアウトを考えている。また、小見出しを文章前に付けるなどの引き付けられる紙面づくりを意識している。

Q2 「広報委員の突撃インタビュー」の編集について

A. 議会だよりへの住民参画として企画したもの。
毎号、広報委員（1名）が担当し、担当者がインタビューのテーマや内容を決め、対象者を選び、アポ取り、自宅や職場などに出向いてインタビュー形式で取材をしている。
担当委員がインタビューした内容を構成し、相手方に確認と承諾を取る。この企画は町民からも好評を得ている。

Q3 YouTube やDVD会議録の内容と成果について

A. YouTube とDVD会議録は、一般質問のみを配信及びDVD作成している。YouTube の再生回数は乏しくなかなか見てもらえない状況である。DVDは、町の図書館に置かせてもらっているが貸し出し

はほとんどない状況である。成果は出ていないが議会だよりの紙面から QR コードで YouTube へアクセスできるので、今後編集能力を上げ読みたくなる、見たくなる議会だよりを目指す。

Q 4 議会報告会の内容について

- A. 定例会後早めに年 4 回開催している。出前方式で住民サイドから参加申し込みをしてもらい、会場も用意してもらう。(時間帯は 1 日 3 回の中から選ぶ)

議会報告については、定例会などで住民の興味あるものを報告し、その後、地域課題について書く常任委員から 1 名を出しワークショップ形式で話し合う場面を作っている。

Q 5 多くの町民に参加していただく取り組みについて

- A. 当議会でも住民参加が少ないという現状は課題である。「ぜひお越しください」とか「とりあえず顔だけ出して」などの体裁を守るための取り組みばかりをしてきたが、「地域課題を議会が聞きに行くので呼んでください」と住民の意思の確認を得る形に変えたことにより申し込みがあり、参加者も増えた。対話できる議会、話を聞いてくれる議会ということが伝わり参加率の向上に繋がっている。

6 総括

町村議会広報クリニック研修において、講師の長岡光弘氏による講話の中で議会の担う役割を紙面にどう打ち出すか、また、読者に分かりやすく読みやすい編集テクニックが要求されることを学び、町民目線に立つて作成することの大切さを再確認した。

高根沢町議会広報広聴特別委員会における議会だよりの紙面づくりは、常に見やすさを意識して、レイアウトや見出しなどを工夫し読みやすい文章を心掛けていた。試行錯誤しながら広報広聴委員が協力し合い編集を行い、「議会のお堅い」と言うイメージも払拭できている。尚、手ごたえも感じているとの事。

当議会も、委員同士のスキルを磨くとともに、常に向上心とチャレンジ精神を持って今後も望んでいきたい。新人委員との親睦を深め合い意思疎通が計られた有意義な研修であった。